



四遠13  
2209  
卷 57

繪本豊臣勲功記六編卷之七

目錄

先俊期死贈珍器於秀吉

屬一族自害

齋藤利三奪馬夜走幸崎

屬乳母節義

繪本豊臣勲功記六編卷之七目錄



辛崎浦老女助利之義死

馬問答尾理

秀吉上洛施仁智熟人心

馬名歌除疫



繪本豊臣勲功紀六編卷之七

櫻澤堂山 編輯



光後期死贈珍器於秀吉一屬自害

百年同謝を西山の日千秋万古北邙の塵かぞわれ猶

喜れある。明智一族が業滅あり。時不天正十年六月十日

卯の一更小迫きころ坂本城の本丸に。光秀が室阿波の方

長閑森條出産せ。附左馬助も延演あつて出陣せ。が

義小凝忠小烈一き勇士。婀娜小烈もまを。さふ集ること百

十二人。武士七十六人。いづれも最期の益敵さんど産と車ふ。い

酒宴を催。悲哀とあを舞謡小。左馬助先後へ。武士の

存念死。いづる後小異名と強。いんそのと。信長公の寝め



おひー珍益名陶奇畫神刀これらの類品と目録ともす。  
 二の丸へ齎す。寨樓小登りて視てやれ。進兵の總軍  
 隊伍と乱さざともや多くと推進す。構側近くなりけるを  
 九馬助大番揚々魁隊と連れ一隊將一言葉投て死洞  
 有り。斯のま乃舟へ明智九馬助先後有り。見泰せんと呼  
 ぶ。この時魁隊の隊將へ。延久太席秀政をり。これを  
 終より腫脹しと權一個小渡把らせ。面門寨樓の積堡近  
 く。馬と騎倚せよ。視て。是へ胸葉の沖舟小おのり。延久  
 太席秀政あり。九馬助の招小應り。單騎これをも推系せり。  
 今更号呼りふさすとも。昨日大津の合戦も。もや見泰のり  
 たり。言らぶき額用いつ中を同じく言ふ小呼をね。明智

莞尔と笑ひ。斯の沖舟あり久太席を。沖舟のまの別系  
 たり。乃舟より。這城小。深守れる輩の道の名あり。城不さ  
 る。後ての覚悟。今更寸突つらま。然る成。這城中一。  
 織田殿。如松籠られ。寝安き。千珍万寶失却せんこと  
 の嘆え。それを沖舟子のみせん。と。これを招きあり  
 先へ願嘗これある。と。不動國行の太刀。二字國後の刀。  
 藥研孫。田舟右光の陪刀。奈良柴。肩衝の茶入。於莞沖  
 茶の金。胴籠の水加。宋朝より渡り。至る名。天目。宋の徽  
 宗。宣帝の香。千鳥の香。後。宋。祗の香。後。其外。千種。の  
 珍。器。寶。軸。いづれも。漢。經。の。袋。小。收。め。或。は。胴。肩。衣。あ。と。に  
 單。と。て。寨。樓。の。武。者。走。小。齎。出。し。次。取。小。これ。を。操。命。し。り。







この下  
 這條より一羽柴殿へ披露あり。まゝとて一舌花添く  
 演ける由を秀政大少感佩なり。これ等の品は一願堂目  
 録共小筑前守小早上を。這目録は信長の紀せられる所  
 華りもせは用ひし。秀吉これを商るを。大張武士の  
 龜濫ふこそと感ぜらる。緯儀うけ。珠岩と受納せられ  
 たり。又も珠中少の残りなく。死後のことすを。調ひを其す。う  
 北の方所成占む。先年松永久秀が。生害あり。懐刃を。  
 送ふ小把て釋世の一首

一この事一と信常一と信常の海とと玉のうて取むぞゆ

孫ト了り。海く自願一とね。後來傳守を。巨女長達。命一  
 様小殉死る。片席へうられ。二人の公達。これも同く。生害

ある。時小長閑。入道。縁く。準備一。あつたり。積累一。う焼  
 草小。四方より。火と。放る。みぞ。鱈ハ。夫小。沖る。を。り。赤黒。活  
 燃起り。忽地。燄中に。充滿一。ろろ。火。各ハ。看く。おの。ひく。小肚  
 擡到く。火中。小。跳。投り。哀を。を。う。わ。く。失。小。り。充。席ハ。此  
 歳。年。頃。り。て。圍も。疏く。小。落。れ。る。も。お。虎。蹴。籠。の。極。威。と  
 存。を。氣。力。や。い。ろ。小。衰。へ。た。る。う。と。太。刀。撃。持。く。天。守。あり。乾。の  
 櫓。と。斌。よ。力。と。究。め。く。丁。度。お。ハ。奇。なり。妙。あり。善。も。せ。で  
 親。鳴。と。破。く。放。ち。たり。先。後。勝。不。あり。ろ。ろ。が。お。り。つ。は。撲。他。と。と。と  
 拍。く。呼。く。破。られ。り。老。伯。父。と。も。最。期。の。證。と。遺。さ。ん。と。と。や  
 と。と。と。調。搦。の。布。板。の。端。小。雙。る。と。う。け。嘔。く。呻。と。つ。り。す。に。  
 幅。二。尺。小。長。九。尺。徑。あり。ろ。ろ。と。曳。放。く。持。來。り。殺。産。と



明智光俊坂  
本の城中ふ  
未曾有の  
滅之行做



琵琶湖  
略據湖江





結んと肌脱捨老人涕泣之つらまつると肚十文字子捨副。  
わけぢり兒の。棋と筆とあり。血代墨とて破極板子記せし  
一筆

琵琶湖七士

略撥湖深學

湖雲臨水有

揮筆湖雲畔

至死不吟潮

譚從湖遠需

湖水向雲無

空描湖水圖

苦態もなく漏くと記書りて勢高らるに吟哦もろくも  
三遍書りて更ふ變せしめて。船本刺削せしむるもろくも  
八之重。船人ハハハの軍中と。光俊と初割が。其刀あり。自害ト  
減ぬつらも。原威うりけるが。其が中おも。左馬助光俊小お

くハ。代後世又ある中。くぞ。知れしける。  
女子九才長瀬春。六十才た馬助は。十六才あり。實不備き。勇士小あん。古本。十六期。小  
是。十五日の  
年の刻あり。坂本。小落城。も。こと。驗。不。哀。終。を。い。く。む。く  
ある。

齊藤利之奪馬夜走幸崎 属乳母前義

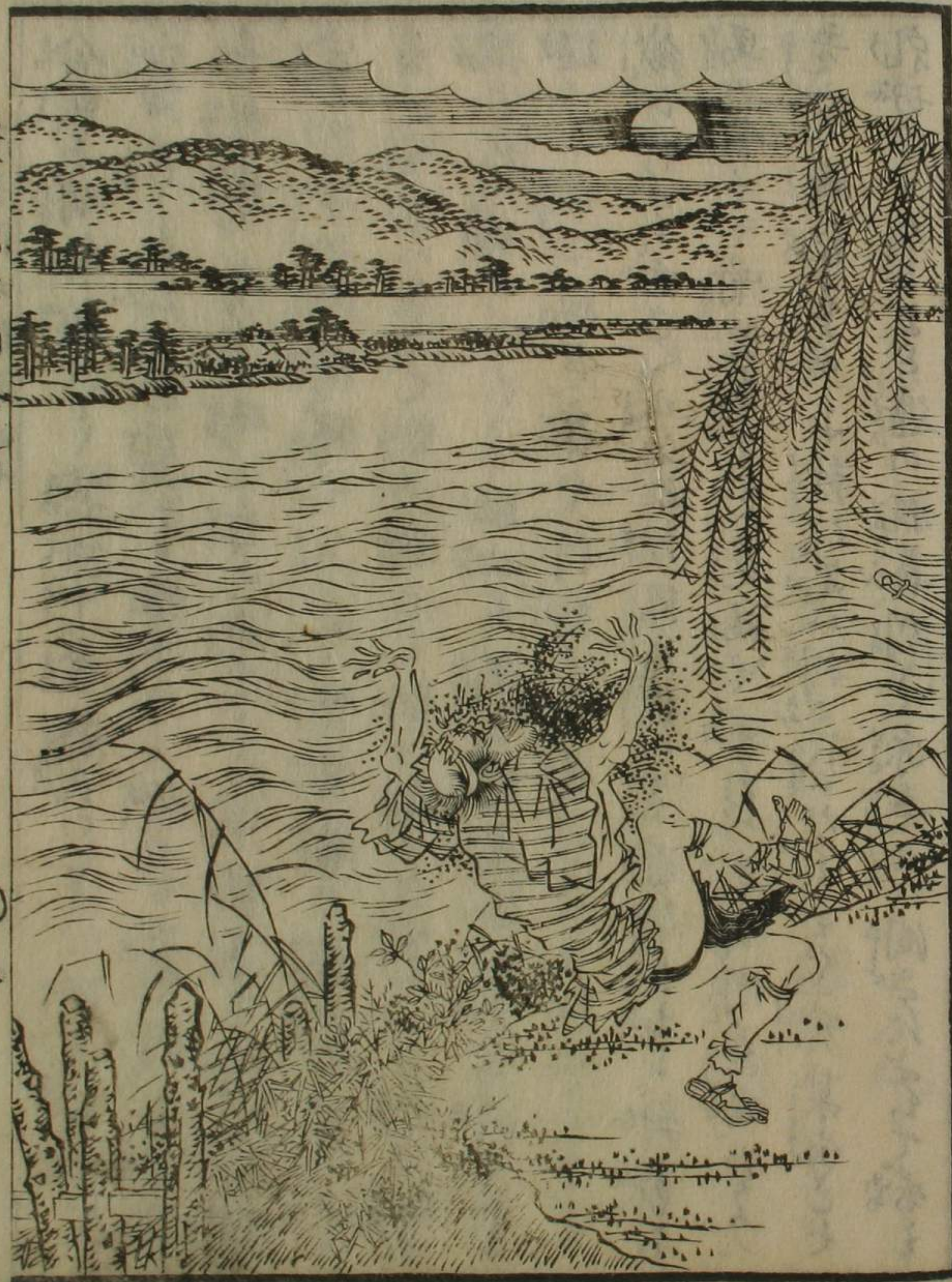
悪根深しといども日光也。枯盡を。苦根。深し。と。雖も。弁介  
の害。深。義。は。大。ある。う。如。豊。公。の。天。運。滅。多。う。如。明。智。か  
謀。根。天。より。分。執。と。用。ゆる。この。銭。い。う。や。道。く。道。い。ん。や。  
義。小。藤。藤。肉。義。助。利。之。ハ。十二。日。の。暮。小。向。と。ま。る。刺。子。息  
伊。豆。守。小。別。見。て。より。直。地。小。渡。と。う。ち。り。り。八。幡。衝。と。撲。り  
く。津。屋。の。渡。小。切。定。ら。る。が。騎。と。る。馬。苦。け。不。一。声。嘶。く。所



地河沖へ外れんとす。利三虚脱せ岸へ逃去。看る隙に馬へ  
 繫出。流水と共に流るを。これより歩行して。臙  
 夜ふぐ道はむろく歩くと行ふ。利三も亦いそいで。肝味  
 らしく収らちして。熱氣頭上小熾ふ。眩暈と争うる  
 也。利三果しと路傍ある。踏石舐ひたる。近く関の澤  
 の音。これ駄と辨ぐ。沢馬あり好物ふこそ出逢ふ。かき置棄小  
 へ。利三も。利三樹陰小身を潜め。待と。知れど一個の馬  
 行。利三も。空鞍折鞭。らりりげふ急がせ。来ると三及  
 たり。行過。利三一声馬行と。あられ。胸より破放。その  
 馬捕。深澤と。逃去りの。程なく宇治の御橋。もつら  
 後ふ。朝日山の。馬一匹。之室。輝川喜撰山の。西の麓を

奔馳して。國邊ある。岩間寺より大津へ。うち。流を。傳ひふ。  
 辛崎を。當て。外あり。這辛崎。小利三。乳母ありける  
 老女。抱り。其心。懐深切。あね。世と。偽を。ん。あ。よ。き。勢。高。  
 と。馬と。そ。や。り。て。来。り。る。若。小。疾。後。内。藏。助。が。乳。母。あ。る  
 と。の。稻。葉。山。の。落。込。より。這辛崎。小。滝。一。橋。と。藁。破。ら  
 遠の昔。月。浪。故。一。個。の。男。子。と。世。の。擲。り。て。新。た。や。耳。順  
 小。逆。一。つ。く。も。起。所。い。と。健。中。と。子。と。大。助。と。呼。称。也。身  
 の。活。計。の。馬。行。あり。然。る。小。疾。後。利。三。と。乳。兄。弟。とい。ふ  
 者。あ。れ。ば。時。々。消。息。な。り。け。り。程。小。利。三。も。亦。憐。れ。思。ひ。て  
 その。を。く。く。小。助。と。駈。く。意。り。を。深。く。る。これ。よ。り。大。助。も  
 恩。義。と。や。す。と。泰。る。中。朝。暮。小。ま。ひ。と。び。け。る。が。今。日。山。崎。の





豊月言六編巻之十一



合戦小明智敗れ其旗小。食戦死のそと。鈴大助大いふ  
 幼若一の公民の用ざる。律かろく母も若利か。安吾  
 を尋求ん。その山崎と斥て。牛一。維梁。成の上刻。  
 家小の老母唯獨沈吟。一々。醫安着を養君の。一  
 多小。哨鬼の。まて。喉の。遷きと。起つ。臨り。つ。心も。そ。う。門の。折ふ  
 風され。偽や。それ。と。駈。出。せ。船。は。燃。發。進。敗。火。と。消。さん。と  
 返り。く。圓。は。踢。き。痛。や。柄。指。の。爪。裂。さ。る。台。鬼。の上。と。ぞ  
 絨。られ。る。血。さ。く。止。ら。ぬ。指。環。は。懸。へ。る。若。び。ま。さ。る。射。あ。ふ  
 馬の。嘶。ぐ。い。哨。鬼。ま。る。り。と。走。倚。て。着。れ。ば。麻。袋。内。花。扇。なり。  
 老女。の。躍。起。を。り。り。小。飲。ひ。是。ハ。利。三。公。か。ら。う。ま。や。噫。某。方。を。そ  
 乳。母。か。り。る。よ。と。遍。の。悦。喜。別。々。亦。老。女。の。泪。さ。れ。ど。も。て。赤。と

ながく小鼻うち。あ。と。志。あ。小。哨。鬼。ま。る。り。と。走。倚。て。着。れ。ば。麻。袋。内。花。扇。なり。  
 視。ま。わ。ら。せ。れ。ば。所。面。貌。も。平。生。よ。か。え。れ。る。相。あ。く。お。ん。を。  
 杖。く。屋。月。へ。投。り。玉。と。ひ。も。つ。る。を。馬。と。牽。我。屋。ふ。は。ひ。さ。ま。  
 と。緩。け。せ。ん。その。容。は。身。ま。る。に。乳。熱。の。容。胎。胎。と。ひ。く。蓼。よ  
 胡。瓜。と。摘。集。り。涙。を。後。り。く。才。碗。と。吞。り。その。殘。液。と。は  
 毆。ふ。塗。浸。し。わ。と。ま。る。際。は。炊。き。う。粥。も。熟。煮。し。て。は。  
 是。と。膳。め。く。木。枕。把。出。脚。伸。し。く。愁。を。せ。玉。と。背。は。倚。り  
 う。ひ。揉。片。く。新。法。溜。め。く。云。や。う。活。る。奇。き。草。窩。と。汎。ね  
 賤。し。き。嬌。と。慕。う。せ。あ。ふ。所。公。の。さ。ぞ。苦。煩。し。く。ま。ま。ん。  
 今日。山。崎。の。合。戦。小。君。も。出。陣。し。玉。ふ。う。一。圓。へ。う。う。が。時  
 る。く。ま。る。所。自。身。の。敗。と。玉。少。紙。胎。を。う。り。く。より。胸。塞。り。て



免思角案。洞あがらふ待詮らり。独こそ来らせむひしぞ。  
 テ合致の極いふ。と老の心。聞く同。内蔵助も密云ふ  
 斯くなりと。頑結小軍の始終を品譚。吾此地まゝ。海邊  
 たる。主君の安否も決定は聆く。然し。后は房を  
 一太刀恨討ちん。あふ。惜く。今迄。致延なり。乳母は俊小  
 来むる。なり。と。聆く。充女はまゝ。喜悦。さる。所着望の  
 り。汗賢。運高。潜居。さる。我子の大助。懐く。より。思ふ  
 知。あさ。如く。卑し。馬行。より。も。膂力も。強く。ゆわ。よ。所  
 勦力。相成。筑前。ちと。奪せり。今。それ。付。も。大助。善。奉  
 馬。率。君の。所。迎。よ。と。京都。より。出。し。道。遠。ひ。あ。今。小  
 辰。は。ど。又。途。は。重。なる。夜。服。見。遠。目。當。方。い。り。り。

ち。ら。ん。と。思。た。る。浩。る。漢。子。の。る。季。小。所。逢。は。あ。き。く。と。同。急  
 色。六。秘。心。小。當。利。之。それ。り。ぬ。繁。と。言。ね。と。十。指  
 指。の。九。を。備。と。も。小。掛。殺。せ。大。助。あ。る。う。と。思。と。それ  
 と。言。流。其。般。馬。子。小。逢。さ。り。と。答。少。成。所。老。乳。母。は。  
 密。と。撥。え。外。面。小。出。紙。燭。輝。し。を。授。け。る。馬。と。一。目。看  
 る。より。斯。い。ゆ。ぬ。這。馬。を。大。助。が。平。目。小。替。め。役。ひ。馬。  
 々。今。日。と。申。斜。小。養。公。と。載。ん。と。か。の。の。あり。る。用  
 慎。あ。や。蹄。湯。洗。く。髻。と。之。に。結。並。け。る。が。果。く。その。解  
 る。ぐ。み。の。結。ひ。あ。る。自。房。の。馬。あり。り。中。を。刺。と。去。  
 這。馬。小。棄。む。ひ。細。と。宣。小。領。と。さ。よ。と。老。婆。が。揚。言。を  
 る。成。肉。小。所。在。新。之。胸。小。綴。又。く。心。地。と。い。ゆ。み。せん。唯



齋藤内藏助

奇寄不到

阿母

悲歎を

醸す





あり小乳兄弟あり大助と知しを家自小莫らるるありある  
 因果を耳心やと嘆きのうち老乳母の赤素の産ふらちも  
 たり。又自ら我子いちや君の見泰小濁らるるとおおも。何れく  
 せりりや。と問われり利之をわ忘れ。潜くと個と流し。噫  
 朽憾やが武運も。そ滅らうとおおもるうれ。子將小明智  
 將軍の脇股と搦まれ。今日の軍の冠隘と慕り。百戦小勇を  
 振ふとつとも。自方の總軍大敗れ。これ後贖ふ力追を。計  
 なく備小敗走し。切ても之念ふ。秀吉と一太刀恨。自人と生  
 死を共小あさんと。白川邊を。一時騎する馬の倒れる  
 小生情病起。後熱し。一歩も足の進むぬ機會う。馬牽馬  
 者ありあゑ。僥倖なりと被馬走と。一刀小斬殺し。馬と奪ふ

路城走れり。豈料らんや其馬丈ハ。老母が子も有らん。個  
 己れ小戮カせん。忠義とゆら。尋小歩。その杜史を。こら  
 小小繫。殺ま。是は。是は。特む樹下小雨漏る。斯  
 微運ある。我身の極。い。と。挿れ。涯。踏。も。天運強き羽  
 紫秀吉。い。を。か。撃。鏢。す。き。山。崎。あ。く。使。死。ま。き。身。と。  
 懸念なる。忠義。と。と。老の。其。方。小。懃。歎。を。う。け。自。身。も  
 詮なき。罪。と。法。り。斬。ま。を。控。き。森。最。利。之。所。詮。本。意。ハ。達。し  
 が。先。肚。刺。り。死。ま。け。れ。れ。小。眼。を。潰。され。と。刀。の。柄  
 小。と。掛。れ。乳。母。ハ。周。章。く。継。着。斯。ハ。赤。東。西。小。狂。ひ。五。ふ。ら。  
 過。失。あ。り。家。人。一。個。失。ひ。と。其。主。君。か。切。腹。し。五。ふ。ら。や  
 あり。這。所。中。く。阿。容。と。と。後。死。し。五。ふ。令。我。存。ら。ぬ。明。紫。教。を



着狙ひ。本意と違へて。一むたれ。喉とをり。小江轉ふ。内蔵助  
 泪紙塵へ。その辨も。わさる。あつね。悲る。あつね。振遷る。死。老  
 の身の杖。中も。持。抱。子。と。失。心。の。苦。  
 か。ん。自。身。も。其。悲。歎。あり。り。それ。違。不。生。の。別。れ。これ  
 へ。死。し。て。の。離。辭。ふ。ち。ん。彼。世。の。悲。嘆。と。思。ひ。や。り。生。害。せ。ん。  
 今。の。老。母。の。練。小。隨。ひ。ま。れ。に。入。日。の。命。と。借。ら。ん。彼。令  
 本。意。と。違。ま。る。中。も。せ。よ。亦。へ。稱。を。懸。る。中。も。せ。よ。其。母。の  
 死。を。老。母。へ。慰。念。これ。中。へ。恨。と。消。せ。ん。と。り。小。老。乳。母。も。泪  
 と。止。め。返。す。あ。ぐ。も。世。の。中。小。武。士。を。悲。し。き。め。の。あ。じ。今日。の  
 所。生。害。と。止。む。る。と。も。明日。へ。忠。義。小。身。と。再。む。ち。ん。それ。が  
 あり。中。も。終。を。き。老。の。身。今日。へ。我。子。小。先。亡。れ。明日。へ。亦。養。公。の

清身の上。及。な。ま。く。こと。作。ぎ。ら。あ。ら。ね。お。氣。の。如。く。清。江。更  
 小。止。ぎ。り。な。り

辛海浦老女助。利三。義死。傳。問答屋理

魏顯が。杜。回。小。迫。る。小。途。び。く。草。と。結。ぶ。の。助。あ。う。ま。彼。と。此。と  
 八。結。句。ね。ど。夙。小。似。多。る。事。を。そ。あ。り。た。れ。彼。辛。崎。あ。る。老。乳  
 母。八。利。三。が。病。を。替。え。り。劫。抱。ま。る。緯。信。と。再。し。義。と。絶。  
 一。兩。日。と。過。る。あ。つ。小。内。蔵。助。も。こ。ろ。あ。つ。ね。ど。病。の。重。ま。り。小  
 鈴。か。こ。あ。く。徒。小。階。一。存。り。差。小。明。智。の。方。の。輩。中。へ。顔。植  
 又。助。と。の。小。者。り。り。先。秀。が。殘。黨。り。と。そ。十四。日。の。夜。款。小。退  
 わ。く。身。と。鯨。き。ぎ。き。所。と。海。人。と。彼。大。助。が。背。戸。小。逃。出。ひ。と  
 去。れ。を。掬。の。わ。く。改。實。息。と。殺。し。く。潛。こ。在。り。終。る。小。其。日



の合戦。赤出が濱小先俊が、血戦頼れて湖水と浴り。幸崎が  
 濱へ登り、くさく病をくも、内藤助同ト、濱を小借み、在  
 たり。外着小これを視ると、いとも、病の重き小給か。さう、懸  
 断となり、其階在くさく。餘り堪が、やあり、ん。誰小これを、  
 し、さう、田名乳母へ驚き、呼覚し、今日、の軍、七、禪、一、が、嗚呼  
 命、あ、う、う、の、搦、下、小、給、その、あり、と、知、す、う、う、閑、被、數、刻、小  
 造、り、搦、下、なる、額、植、又、助、これ、を、給、より、又、さ、り、利、三、這、家  
 小、解、を、る、う、右、や、せん、左、や、と、沈、思、し、ける、が、仇、小、さ、く、堪、が、  
 くれ、再、び、こ、成、脱、出、く、坂、求、れ、ん、と、さ、り、く、さ、く、運、の、苦、く、期  
 小、也、遂、小、田、丸、幸、を、身、が、兵、小、捕、を、れ、強、き、拷、問、の、苦、痛、し  
 堪、り、小、齊、藤、利、三、が、所、在、と、告、自、己、が、罪、と、免、れ、ん、と、い、ふ、それ、と

聆り、田丸と、初、藩、將、大、小、驚、う、れ、了、得、小、智、勇、の、内、藤、助、が、  
 こ、ら、さ、う、小、解、く、と、を、候、し、れ、を、大、將、筑、前、守、小、給、へ、け  
 れ、去、へ、捕、捕、と、旗、本、なる、一、柳、市、助、田、丸、幸、太、更、小、命、ト、い、ひ、  
 拒、強、の、勇、士、三、十、餘、人、馳、率、百、人、と、跟、從、を、せ、彼、囚、人、小、指  
 所、を、せ、惱、し、地、小、辛、崎、なる、利、三、が、藝、高、小、推、進、し、是、六、月  
 十、七、日、より、終、る、小、這、日、馬、行、大、助、の、母、や、る、の、い、ふ、小、思、ひ、ん、  
 處、なる、大、釜、小、水、と、充、満、畝、入、柴、折、焚、く、必、る、な、る、小、焚、  
 起、在、ける、その、こと、く、進、來、る、田、丸、一、柳、這、家、と、犇、く、と、推、提  
 圍、む、内、藤、助、の、病、中、なる、が、破、と、改、紀、帯、を、給、太、刀、松  
 俣、と、面、頭、と、看、行、の、後、の、捕、兵、十、重、二、十、重、小、滿、藏、小、森、一、尺  
 草、を、張、推、提、捕、く、兵、將、一、柳、が、怒、暴、ら、げ、這、家、の、中、小、明、智、の

書臣記六編卷之七

三



重竹と  
老女  
の  
巻の  
單竹

後葉。後葉内庭。助。居。し。所。り。し。決。指。不。知。り。囚。捕。  
小。向。あ。り。正。直。尔。索。を。被。よ。と。呼。び。怒。尔。利。之。の。後。く。准。  
備。の。青。竹。弓。作。り。く。上。戸。路。不。引。掛。居。る。床。の。素。矢。竹。  
等。く。搔。緝。懸。不。進。こ。一。賊。率。を。次。矢。冷。く。七。八。人。右。つ。  
左。つ。射。劍。し。り。田。丸。へ。を。ね。と。着。り。よ。り。も。呼。び。持。以。り。殺。  
殺。や。と。指。揮。を。南。より。彼。老。女。を。少。く。を。せ。と。六。尺。戸。を。撲。地。  
と。周。刃。尻。張。固。め。猶。も。多。賊。り。利。三。が。後。面。小。腐。く。着。後。  
う。り。内。庭。脇。へ。突。撞。の。あ。り。け。さ。り。の。め。引。つ。り。射。起。る。を。と。よ。  
緝。捕。輩。一。個。も。よ。へ。登。降。せ。右。左。不。矢。種。も。ん。ん。と。け。り。  
老。女。の。着。り。よ。り。頭。を。ね。よ。と。取。ぐ。り。後。舎。小。走。行。布。襪。  
巻。の。單。竹。で。小。め。の。之。早。本。採。抱。へ。と。れ。紙。斯。く。あ。そ。を。を。と。

一本投る。逆づく。緝兵が。眼。と。的。小。抱。着。れ。い。狸。外。右。の。目。  
發。止。と。ま。と。利。三。着。り。大。張。衣。着。利。三。が。乳。母。あ。ぞ。あ。る。と。  
登。候。一。殺。へ。し。如。く。投。り。の。抱。着。呼。着。且。目。鼻。腫。吐。ね。り。  
ひ。遠。を。を。交。の。傍。く。痛。痛。と。着。る。輩。多。う。老。女。の。い。づ。く。  
ゆ。き。う。り。けん。姿。い。着。え。ま。あ。る。う。と。か。り。小。其。際。も。わ。く。を。背。戸。  
い。り。お。麥。湯。ま。を。殺。投。る。緝。兵。忽。ち。散。乱。し。て。勢。や。く。と。  
声。苦。し。け。小。四。角。八。方。へ。逃。走。り。何。事。あ。や。と。内。庭。助。那。方。  
を。儼。と。現。し。や。れ。ば。老。女。の。裾。裾。繩。繩。甲。變。り。き。お。拍。ふ。  
二。升。中。の。大。抱。拍。を。雙。も。小。搔。把。最。着。り。沁。却。し。熱。湯。と。  
逆。よ。り。緝。兵。輩。の。頂。面。より。會。釈。も。ち。く。撒。掛。り。小。ぞ。り。得。の。  
強。率。奉。甲。脚。首。類。類。類。類。多。委。言。不。淹。灌。れ。れ。も。是。成。





豊臣記六編卷之七



豊臣記六編卷之七

五



振りて逃るもあり。顔と抱て、怯むもある。老女が抱へるも、小  
 暴神祈る祝女が。烈しに詫宣蒙りて湯花と置る小異るも。  
 這方少い系内義助。乳母が与へし草竹と。緝捕の兵の迫倚候  
 小把るも、善持て、抱看ること烈し。是れ有数の草竹その  
 種も、や盡あんとするや、緝捕へすりや、は方八面放れ、  
 と走進を。海たる兵撃懸しや。と太刀割懸て突き入り。これ  
 田丸が列軍ふあつ。百鳥女令八郎と号呼うけ、突と馳進を  
 利二。仁王の像き腕付舒し。百鳥女右腕抜りと看る。海  
 口又間あやぐ、物出を。續く中海助も。呼声一取輪  
 歩振り捕と、鬼るを。劈面より。抄新刻小正二。浪豊浦百鳥  
 海田中忠義。左右より突出を。下概又概同先へも。まど至りぬ

うち。豊浦田中。拳一。森。四。春。一。刀。不。放。一。逃。成。装。束。り  
 忠義が。肩より。懸。刺。下。空。も。流。且。ぬ。際。一。万。鳥。湯。と。胴。刺。小  
 しく倒し。這。後。續。小。怯。も。せ。堀。口。衣。袋。傍。舟。傍。次。云。湯。  
 中。嶋。利。右。邊。二。方。より。歩。く。義。の。脱。影。の。蹟。逆。後。ハ。い。づ。く。へ  
 利。二。の。體。旋。と。噫。ら。ふ。と。い。り。自。在。の。上。小。跳。着。是。末。舒。し  
 て。堀。口。の。面。と。蹴。返。せ。その。勢。力。眼。小。當。り。て。逆。踏。ぐ。と。志。る。  
 卻。合。小。舟。傍。と。頭。合。り。て。兩。人。が。顔。に。殺。鬨。と。血。烟。が。卷。せ。て  
 微。塵。不。り。れ。と。成。驚。と。中。島。一。足。退。利。三。跳。着。首。轢。落。  
 それ。遁。ま。ぬ。と。末。吉。藤。八。丹。羽。平。二。舟。上。板。市。云。湯。雨。屋。清。六  
 一。同。等。と。衆。勢。業。に。母。び。赤。字。の。院。然。丁。字。の。杖。負。そ  
 院。生。せ。て。内。義。助。雨。屋。の。膝。を。突。と。脱。く。その。中。雨。所。檢。捕。と



末右と坂丹羽の個がさうに搦れ利をを意得一可不欲  
 られおられ清六之口の禱もいそれも息絶す。南阿吉等  
 よと市会場が刀をくまひ利之付入。胸を正當に瀉殺す。  
 這揮不強兵勇率志を眩し追う。一折と成り着る。  
 今は是れは射と指揮小隊の二十餘人が六十の  
 拳と張極く射起す。矢頭の最危あきと老女の厨と走出。  
 大釜の蓋持来し。所時の指しおとせと。搦も際おたれや  
 征矢二條老女が細腰射抜く。免や吾や老女の苦痛と  
 了得の勇すもとろ乱る。おるは刀拉落し。得るは咳  
 と寺田定七。四辻元氣女巻勘太。坂江治平。衆脱くせ。  
 胸の四面に撲助着て。叫く呼と擗ぐ。搦も悟せぬ強を

の利之四人をむろく。人礎腰の番上頸の骨。かつきおろし  
 お折られ。起も揚ぐ。九死一生大將田丸。一折も。今々着  
 かひて雙方より。無頭と擗で扭合わす。痛中といひ利之も  
 其身鐵石あさざね。遂ふ二將不碎胡さ。其响は根根  
 顔く。家頭も墜む。それ捕めり。残りの兵卒。四又十一度小  
 手拏足捉。左右なく。索と擗得る。這時老女の深残あが  
 らも養君と遁與いせと。擗起らる。利之が。裾小縫り。放  
 ころもの遣ぬくと。叫ぶ。成看る。内務助の涙と。涙り。乳母の恩  
 へ母も増も。と。聆つる。そのと痛くや。死の期までも。這忠節  
 某方のと久大助まで。命と棄き。看る。かげもなき。内務助  
 を助る。大恩。海山も山も比し。斯あるうへ。切くもの。



恩報いふん冥途まで。死ぶの山城三途の後。牛馬とかりて  
伴えん。返すぐも切番やとて。掌と合せて拜とさすても。郷の  
身の為つきやう那。森友内務助利三が。百万人ふも屈曲  
をね願と下る。現世の謝恩。喃辞別よとりまうし。突記揚て  
去来母とゆ。跑散して演途と。筑前守が在陣せむ。三井  
寺へこそ望とゆ。田丸幸太丈一柳市助。森利三を捕  
来れり。言状小及びむね。秀吉とわかれ。石田  
孫吉之成をのり。利三と弘明とせん。所地成敗場へ  
出せ。石田三成書院なる。極類近く進出。内務助小うら  
ひ。笑顔を作し。詞を静小。其方自らの武勇小奢り。故と  
捨義理不遂と。明智と随ひ。無道小戮力して。遂感を振

ひ。猶懲む事ん我若と。仇と。狎小大膽不款。筑州敵小義小  
同く。水道と縁。王業の誓と代。緒民を安うら。國  
去成平治と。あふを。世經不遂と。取。遂小戮力と  
功なり。軍小。怯神免と。煩ら。一遭山崎と。道出。其身  
小なり。を上。獲あり。天將道と。道。皆。傳  
素の。辱小。逢。た。筑州敵を。仇。一。願小  
太。愚昧の至ある。の。速不。速と。持ひ。仁義の。殊を  
奉られ。と。驗。森友内務助。大の。眼と。歳と。財。曲。身長  
小なり。と。大。喜。聲。汝。武門の。道と。知ら。素小。世。障と。礙。園  
武士小。向。不。禮の。同。條。汝。像と。此の。匹。丈小。あ。ん。ぞ。乃  
解。本。意と。知。られ。ん。や。原。儀。則の。主を。捨。猶。余。一。徹。入。道。小





秀吉の理言  
 服齋藤利三  
 刑戮と被る

豊臣記六卷之七



豊臣記六卷之七

九







ざる一言半騰勞と辱せぬ我慢秀吉おあひふ笑とせ  
 むい。這ハ想違せり亦福利之母が智勇ハ他ふ超て秀  
 たりと恥つるが口と心の雲泥あるを勝者わん。斯まを理  
 非小味きとん。恥えざり一が呵笑止や。我ハ元來公民小長  
 成る學ぶるが故事の跡一。然ども理ハ是の量り  
 無学のこれま其理我知る小。汝あんを謀てるやと  
 恥る利之あわも辱せぬ。我を見せせとん勇なりと  
 とそのふとの代。恩を知ぬハ不忠の武士あり。乃府をに  
 も謀ふと詞放言を成秀吉。汝もあつと意惑逢り  
 とのとも明智が恩我小むられ。吾我怒敵と一  
 規ふと。あは神妙のまあり。然りといふとも吾が光秀を

伐つる素松の遺恨小いらし。光秀ハ同席の朋友なるもの。  
 縁故あり又と合さ小思ひず。然るに光秀主君と信長  
 公と裁一。まおつる。光秀小おわと止と成得ざるの思技  
 たりとも吾小おつる。大恩奉する主君の讎あり。へんぞ天と  
 同くして。后時も猶縁あるまきぞ。甚とそ樂に滅しとん。  
 是正順の道理中々。君臣の禮義小ある。然る小汝が  
 吾を恨ふハ仇とハのへも天下の法小背けり。秀長汝が不  
 存を感じて敵一とん。あつとも天下の改道ハ換がし。  
 猶眼赤の理を説バ。汝が吾を敵とて首尾よく撃バ。吾が  
 親殺。汝を亦敵と撃ん。然一と轉輪するやとあふ。いつの  
 時小世を承治し。民を安途小住まづき。這理を等と思意







大へ信義と竭一正理を連ねて鬼神をもよく拒み英  
 智の言不利にも膽小膏一魂小汗を。頭もつら地小  
 壘も拳る小力もたはが如く。要時細もあうり。漸く小  
 して頭と擡げ今更粟を小細もなり。只這上へいりあうりも  
 刑罰命属らるべし。顔色変せは言状も筑系守も渠が  
 英雄古今獨歩と感トむひ。解公のうへ先秀より。獨  
 重うるべき刑罪されども。汝が忠信あうり感むる小刑りあ  
 へ。其法も刑罪法存教。切腹のや一つくべき同我目  
 承ふく伏双せし。仁義の余小内義助斯ハ切茶一屬  
 なるぬ身の忠義小賞と被るのまう。刑を赦され冥加も  
 切腹命せつけらる事。寛仁の汚情ぞね法顯止小似れども。

怖く主人と共ふ。いりある刑中も押せられむ。這上もるま  
 恩義あり。このまふ秀吉増く感義。然ハ望小信せ侍  
 させん。汝が子孫の身小おのり。一切関符あうり。子息共  
 へ底言小まれ。粟孫を養もつ。死後小違一侍さす。一  
 と内義助が御解せ。紙筆と與くられらるま。利こおわひ小  
 感悦あり。残るかゝるは。河仁澤。然くばこそ紙筆撥攘り。  
 一封の書と記めらる。這書と子息利光。伊豆守。あうりの泉  
 州城小在住。そわく。置る。一。信り。章小も最締一  
 く。秀吉の仁義と示。父系利光。張落せ。心。子孫と  
 續せん。心底あれば。天助の羽柴秀吉公と。父君の仇と。あ  
 べう。火めく。父の遺給小背らる。順路小其身と安行さす。

豊臣記六編卷之七

二五三



と意を汲みて一々謂遣たりけり。皆も亦内務助が成敗  
這小極りければ日の園山も出づ。首と分る望の如く中村  
長兵衛が持来り。先秀の首と共小。獄門小梟られたる。  
利之往年四十歳辞世の歌あり。

清くや露の命に短敷のりすとも死すべ日の影は暮  
備又利之が子息伊豆守利光へ父の遺書と裁遣ともなく。  
伏拝と追若ねんらふ吊ひける。其後加茂虎之助渠が  
武勇と大賞受。求願て居たり。齋藤立本と号  
呼るる。後年清正主計頭の任するふあつびく。立本の  
功を賞し。二万斛を賜へられく。再び赤坂伊豆守とて  
号らせしれある。

秀吉上洛施仁智熱人心属名歌除疫

軍馬ハ解き野小放ち。兵器ハ碎き犁鋤とあるの。其緒と縁  
初る。當天天正十年六月十八日。緒所の住伸あつて  
事詳不知し。坂本の城を破り。安土佐和山長演  
あんと。愈悉落城せしむ。今令く亡君の所怨と報し。あ  
小より。権威忽地秀吉小帰属し。畿内緒彦随順し。一々。  
二井の陣門小布と做も。然も小先達て。舍身受濃守秀長  
たつび小濃野彌兵衛。青木勘兵衛。今令く上京せさせ。  
洛中洛外を平鎮あつて。あつて。今ハ逆徒の威書し  
ければ。秀吉とつて。上洛あり。東西の政道安撫の謀畧汲  
行ると。當日二井寺と出馬せし。行列特小厳し。京都の



地小入りむ。先隊ハ姫久太郎秀政其隊の勢兵千八百餘騎  
 二陣ハ中川瀨兵備清秀高山右近長房少勢二千餘騎。三  
 陣ハ所地旗本勢。服部之勇士一隊。小。金おとそりる。將若  
 孫。大將の前後左右。衛護を。羽柴筑前守秀吉。小。小。  
 八日月の曉の緒と固く緘。令銀の銃具撃く。あつる。外の花  
 の護と着。例の國次の所太刀を帯。大駒の名馬。先後。小。  
 鎮金の鞍。浮銀の澄。紅深の厚。旗うけ。雄。く。栗。く。四面  
 小。加藤。福島。片桐。糟谷。平野。脇坂。中条。神子田。一騎。當  
 千。万。丈。不。當。の。英。雄。豪。傑。本。部。の。精。兵。一。万。餘。騎。後。陣。を  
 池田勝入。赤。之。千。餘。騎。丹。羽。又。所。左。清。門。二。千。餘。騎。筒。井。順。慶  
 一。万。餘。騎。其。餘。の。名。士。お。り。小。自。勢。と。率。て。上。洛。を。今。宵。ハ

愛宕郡紫野大徳寺張りて。本陣と定められ。先陣被  
 地小着。ま。時。後。陣。ハ。漸。く。粟。田。口。を。選。り。進。く。こ。り。列  
 行。を。此。小。固。く。華。洛。の。貴。賤。畿。内。江。若。丹。波。邊。の。老。幼。男  
 女。小。至。る。身。を。今。日。こ。そ。治。國。平。天。下。と。領。し。の。さ。り。大。將。軍  
 入。洛。し。む。小。行。旅。を。れ。と。先。軍。少。く。道。路。の。左。右。小。跪。踞  
 も。り。儻。む。も。あり。堂。合。せ。く。揮。む。も。あり。牙。希。有。や。嬉。し  
 や。と。秋。の。勢。ハ。天。地。と。動。う。山。川。野。谷。小。充。備。し。々。先。神。も  
 瀧。浦。一。奏。樂。し。ぬ。らん。風。勢。と。こ。そ。の。想。像。を。い。る。然。而。と。小  
 羽。柴。の。總。軍。紫。野。小。着。陣。し。々。れ。ハ。美。濃。守。秀。長。と。り。て。  
 菊。亭。殿。へ。秀。吉。入。洛。と。言。状。せ。し。り。就。て。山。崎。合。戦。より。明  
 智。一。族。悉。く。滅。却。小。及。び。い。く。の。暫。く。羽。柴。秀。吉。と。り。て。京



都の衛護と相勤むべく存トてまつる。然とも是亦秀吉  
 が。我恣の行蹟とおぼされんもいづるれ。所沙汰よろしく  
 怖れど最叮嚀小述よりける。菊亭殿これ誠聆徹られ直地  
 小奏聞しててまつる。遂徒殊儀の功勞り。蚤くも洛中と  
 平漢せし条拔群の誉なりと所賞賜あり。則泰内ま  
 さむ。菊亭殿とめて命下さる。これ小周く筑前守家戒  
 して身と津中。俱供の人にも僉借ふ。渴撤と掃して泰内  
 あり。菊亭殿の所傳勅も。京都の衛護庶民の政事。  
 執行も。命傳さる。秀吉慎く所奉仕のせ。辞奏言  
 して退出。即地王城平漢の役と。僉それく小命属られ。  
 織田家の居家。國々の守護へも。明智退治のよし。死脚と

走らせ嚴密小隠なく言徇られり。明正六月十八日。秀吉  
 ろうり。本能寺不到られ。先君所奉命の蹟と尋ね所遺  
 骨と。むやみやめと。悉く拾収り。廟殿をそく小造營ま。と  
 淡野青木小命せられ。所身はそれより知君。三法師丸の  
 一す。尾州清洲へ傳られんと。その準備とをさせられり。  
 三法師丸へ中將信忠卿の儲の君小サリ。けり。東濃州  
 城守小おつ。けり。本願寺の近親より。尾州清洲へ移られり。其へ備置小。河川  
 與一郎忠興が妻は。是光秀の女あり。先達て日向守細川  
 父子と為擔らんと。使者とめり。京遣を。これとも。不氣  
 増く。藤孝。忠興。此も。信小。氣。色。な。却。く。妻。の。化。身。養  
 食も。別。裂。く。難。別。小。道。む。れ。ら。る。が。い。う。好。も。所。存。の。あ。り。る。あ。や。  
 坂本の城へ。返。さ。さ。り。丹。州。二。戸。野。へ。送。出。し。帮。侍。阿。安。環



属置つけお。考しらべ。六月十日。山崎合戦やまざきがくわの敗やぶ。所ところ。從士しゆじ。倭やまと。  
 ころあつと。正令ただしめ。不動ふどう。ゆゑ。所ところ。悍はげ。や。実父まふち。君きみ。の  
 所ところ。著あや。極たぎ。り。ぬ。所ところ。著あや。も。平たい。く。明あや。智ち。殿どの。の。所ところ。自みづか。内うち。を。お。じ  
 せ。定さだ。めて。這こ。所ところ。へ。も。毆う。手て。来き。り。尋たづ。ね。あ。ん。と。同どう。家け。を。り  
 決こ。て。も。適た。お。ぬ。所ところ。身み。を。ぬ。ぬ。索ま。縛わ。の。秘ひ。法ぽう。受う。む。よ。り。後ご。所ところ。生せい  
 害がい。を。ま。ま。と。切き。る。も。の。所ところ。苦くる。名な。と。同どう。と。共とも。不ふ。の。一いつ。け。後ご。堂どう  
 これ。法ぽう。听き。し。め。い。づ。も。其その。理り。を。ま。ま。も。あ。る。ま。ら。う。も。其その  
 意い。を。あ。れ。と。都みやこ。く。婦ふ。人にん。の。少せう。壯さう。老らう。の。年とし。不ふ。順じゆん。し。親おや。と。吏し。と  
 子こ。不ふ。後ご。不ふ。是これ。先せん。哲てつ。の。誠まこと。な。ら。ぬ。故ゆゑ。妻つま。の。父ちち。の。縁ゆかり。を。離はな。れ。細こ。川がわ。殿どの  
 不ふ。得え。き。身み。を。ぬ。ぬ。善ぜん。惡あく。と。も。に。後ご。不ふ。不ふ。良らう。人にん。より。外ほか。を。り  
 不ふ。得え。し。世よ。不ふ。本ほん。能のう。寺じ。の。變へん。わ。り。し。ぬ。離り。縁縁。を。遠とほ。び。む。ひ。し。も。

坂さか。本もと。一いつ。返かへ。む。を。此こゝ。這こ。地ち。へ。送か。り。止と。め。し。ぬ。ふ。の。ま。ま。吏し。の。所ところ。を。あ。ら。ふ。  
 難がた。別べつ。し。む。な。ぬ。の。と。查しら。せ。り。今いま。際さい。く。生なま。害がい。を。ま。ま。父ちち。の。孝かう。に  
 達いた。べ。け。れ。と。良らう。人にん。へ。の。貞てい。義ぎ。を。失し。つ。と。天てん。命めい。適た。れ。ぬ。附つ。け。お。せ。  
 ば。某その。方かた。達たつ。不ふ。防ぼう。矣や。と。せ。其その。際さい。に。生なま。害がい。を。ま。ま。の。を。吏し。不  
 後ご。不ふ。時とき。に。あ。れ。ぬ。只ただ。孝かう。と。捨すて。貞てい。取と。ら。ん。と。虚おぼ。明めい。理り。の。一いつ。云いふ  
 不ふ。後ご。士し。倭やまと。特とく。不ふ。感かん。腹はら。し。洞ほら。と。共とも。不ふ。唯ただ。く。怒いか。り。然しか。る。不ふ。日ひ。量りやう  
 之これ。あ。る。む。と。大たい。智ち。を。邊へん。の。羽う。柴さい。殿どの。寛くわん。仁にん。大たい。度ど。の。料りやう。理り。と  
 之これ。と。徇あ。せ。む。し。の。令おきて。籍せき。不  
 先せん。亡がう。明めい。智ち。日ひ。向むか。守し。く。若わ。下げ。者もの。雖も。有あ。り。與あ。り。謀まう。殺ころ。す  
 之これ。名な。是これ。主ま。命めい。所ところ。從したが。実まこと。可た。謂い。忠ちゆう。信しん。遂すな。有あ。り。先せん  
 秀ひで。造ぞう。滅めつ。亡がう。者もの。於お。家か。人にん。所ところ。不ふ。可た。有あ。り。其その。罪つみ。倭やまと。



之諸侯之中、於望有之族者不及遠、意可  
被招抱者也

浪野弥兵衛長政兼之

天正十年六月十八日

諸侯へこれ汝徇謀され。且亦標記ともえられし。怨  
抱け。明智の除黨も。這仁改不憤怒と碎られ食それ。被  
官をけけ。此不周く二戸野ある。細川の室おあても。事不記居  
せられ。多望奉の春の頃より。諸國大不疫癘流て万民多く  
悩まされ死ふ。多望の海沙ともの。算あか如し。これがらふ  
諸寺元山が持行禱の体ざり。多望塔巻。此の二戸  
野ある。細川の室の後士もこれがらふ。煩ふ。送付ふ。令一首の歌と

縁と玉い門頭め極小敷せられし。其歌ハ

いりそぐり所裳川の流るむ人よ。よのよと夜癘の神  
四隣の百姓輩。此洞と所傳各あり。これ代も。独退者ハ  
風より速し。と此洞次。不洞流。今ハ京まで聞え。も千  
門万戸の門小守敷を。秀右速くも。於しめられ。再之これ  
を甘吟せられ。感せし。律一應ある。這歌ハ凡俗の極小  
いり。誰が味つ。多吟味。と。命せ出されけ。よよ。其  
傳口強り。穿穿一むらに。之戸野ある。細川の室の。汝  
ある。よ。一聞上。より。秀右。感。せ。れ。文。人  
ある。よ。其子。小罪。ハ。掌。なり。増。や。細川。不。嫌。し。言  
の。忠。興。ハ。心。中。も。さ。ぞ。あ。ん。浩。賢。女。の。婦。人。万。民。の。世。と



豊臣記 巻之七



細川忠興の  
正室三戸  
野子藝  
志秀吟  
疫癘と  
被子



豊臣記 巻之七



助けたり。然るに今それを知らず。粹其婦人。小罪。あはれと。天  
く。我子。若く。あつらん。先。秀吉。が。媒。も。周門。小。納。娶  
せん。と。細川。忠興。を。招き。せ。れ。丈。婦。の。義。貞。に。感。賞。せ  
れ。遂。に。再。嫁。せ。し。め。ら。れ。る。

繪本豊后敷功記六編卷之七終



